



HSTA 2016 道連事務局だより

〒0062-0905 札幌市豊平区豊平5条11-1-1 道立総合体育センター内 Tel.050-5501-8761 Fax011-820-1730

第 15 号 2016. 11.11

発行／北海道ソフトテニス連盟事務局

『第71回国民体育大会・希望郷いわて国体』成年男子初優勝の快挙！

今年の国民体育大会は、岩手県北上市で10月2日（日）から開催されました。

前日に開催された国民体育大会総合開会式では、北海道選手団の旗手として、ソフトテニス少年女子代表の札幌龍谷学園の高橋選手が、その大役を務めることとなり、堂々とその役割を果たしてくれました。

今年は、シングルス導入2年目の大会であり、各都府県もその対策を行って臨んでいることが、窺えるなか、北海道の成年男女は、シングルスに柱としながら戦いとなりました。

結果については、成年男子は、初戦岡山県との3番勝負をものにし、準々決勝は、大応援団を背景に戦う地元岩手県との試合でしたが、強気のプレーの中にも落ち着いた展開をした北海道が、1番、2番連続勝利で昭和54年以来のベスト4入りを決めました。そして、2日目の準決勝は、もと日本代表を含む強豪宮崎県を相手に霧雨の中、終始攻めの姿勢を崩さなかった、吉田・田中ペアがファイナルの接戦をものにし、二番大塚選手につなぎ、序盤リードを許すものの、攻めの姿勢を貫いた大塚選手が、ファイナルゲームで逆転勝ちし、成年男子初の決勝進出を果たしました。決勝戦は、ダブルス、シングルスともにアジア大会日本代表を有する広島県との対戦となりました。トップの吉田・田中は、2014年天皇杯チャンピオンの水澤・長江ペアに4-1で敗れるものの、二番の大塚選手が、今年全日本シングルス第3位の船水選手を4-2で破り、三番の河野・榊原ペアにつなぎました。三番勝負は、1ゲーム・1ポイントが、緊迫した内容の中、終始攻める姿勢を貫き、浮足立つことなく戦いぬいた河野・榊原ペアが、4-1で押切り、何度も国体の1回戦で壁となった広島県を破り、北海道初の成年男子優勝を決め、コートは歓喜に包まれました。

また、全都道府県フルエントリーの成年女子は、昨年5位入賞を果たした自身と粘り強い戦いで、初戦の栃木戦を2-1で勝利し、3回戦奈良戦も2-0で勝利、準々決勝では、優勝した兵庫に3番勝負まで持ち込む健闘をしましたが、惜しくも敗れました。

順位戦には、千葉戦、京都戦において何れも3番勝負となる健闘を見せましたが、惜しくも敗れ、第8位の成績で終えました。しかしながら全県出場の厳しい条件のなか、2年連続となる入賞を果たし、男女総合においても第6位入賞となる原動力となりました。

少年男女については、惜しくも入賞を逃しましたが、少年男女が敗れた相手は何れも優勝し、特に男子については、3番勝負もファイナルゲームの大接戦であったことから、入賞の可能性も十分にあった戦いであり、若い選手たちが、果敢に強豪県に挑み来年への期待を残す戦いぶりでした。

積年の努力が実り、北海道ソフトテニス界の長年の夢であった成年の部での優勝は、監督・コーチ・選手・役員に加え、支え続けていただいた多くの関係者の総合力の結果であり、心より感謝を申し上げます。今後、さらに課題を克服しながら、北海道のソフトテニス界発展のため、関係者一同努力していく所存でございますので、皆様には、引き続きのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



大会の詳細は、10月28日発行のソフトテニスマガジンに、カラーとモノクロの両ページで大会の様子が取り上げられているほか、10/4北海道新聞朝刊の21ページ(スポーツ面)でも大きく取り上げられました。

さらにインターネット動画サイト YOUTUBE でも岩手国体成年男子決勝の様子を見ることができます。

北海道連盟のホームページにリンク先を紹介していますので、ぜひご覧ください。

なお、この偉業を称え、**祝勝会開催を計画**しています。ふるさと制度で代表選手だった道外の2名の選手も参加できる日程を調整中で、今のところ**来年1月14日(土)**を予定していますので、正式決定後、役員・各支部にもご案内いたしますので、ぜひご出席をお願いします。(全日本レディース団体優勝、マスターズ団体準優勝のお祝いも合わせて実施の方向で検討しています。)